

夢の世紀21世紀に突入して———村上 誠一郎

初当選以来大蔵委員会に所属し、その間、大蔵政務次官、自民党財政部会長、衆議院大蔵委員長と、経済・財政・金融・税制を中心に仕事をさせていただきました。その間、大蔵委員長の時には預金保険法の改正、金融安定化二法、ビッグバン法等、約60本の法案を担当させていただきました。こうした経験の中で、この数年間、なぜ日本が失われた十年になったかについて感じたことを率直に申したいと思います。



現在、日本は明治維新、太平洋戦争に次ぐ大きな津波、すなわち経済の「ボーダーレス化」、「グローバル化」、「メガコンペティション」の波に襲われています。そのような時に「政治」は政治改革と自民党の分裂が重なって残念ながら混乱が続いています。「経済」はバブルの崩壊の過程の中で不良債権の処理、過剰雇用のミスマッチの調整及び過剰設備投資の償却が遅れてしまい、これが現在の不況の根本原因となっています。更に「行政」も各役所の不祥事によって一番大事な信用・権威が失墜してしまいました。このように日本の原動力である政治・経済・行政のそれぞれの核が崩れた上にばらばらになってしまった。それが失われた10年の大きな原因ではなかったかと考えています。

では、今後、日本が立ち直っていくためにはどうすべきか。

第一に行わなければならないのは、構造改革と不良債権の処理です。企業の競争力を取り戻し金融不安を取り除き、資産デフレと信用収縮を止めなければなりません。

第二に実行することは、国約500兆円、地方約200兆円弱、総額666兆円にもなる借金を立て直すために、「福祉・地方自治・公共事業」のあり方を中・長期的にどうするか見直すことです。

第三に「高齢化・少子化」時代が到来すれば、残念ながら社会的・経済的活力は低下します。そのために女性やシルバーエイジパワーの活力をどのように活用するか。また少子化対策にも取り組む必要があります。

第四に、テポドン・サリン・阪神大震災に象徴されるように、国家の安全保障・治安・防災・金融問題等の危機管理体制を確立しなければなりません。

第五に、教育の問題があります。私は、国力というのは、「人口×能力+資源（エネルギー、食料、情報）」と考えています。このうち、「能力」については、教育の建て直しが必要です。初等教育では「読書」、「読み書き、そろばん」、高等教育においては、「冷徹な論理」、「鉄の意志」と「熱き情熱」を持たせるようにすることが肝要と考えます。なお、国家のリーダーというものは、六・三・三制を卒業すれば自動的にできるものではありません。国家や社会が意図的にリーダーをつくって社会もそれを評価し、また若者に「矜持」と「公の精神」をもたせることが必要です。

財政、経済と教育の建て直しが一日遅れれば遅れるほど、次の世代が痛むだけです。私としては、景気の動向を睨みつつ、財政改革と構造改革を同時に達成できるように、時宜を得た政策を果敢に実行していきたいと考えています。

このように、現在の我が国は難問が山積しています。このような状態は明治維新、太平洋戦争終戦時と同じく、もはや一政治家や一官僚で建て直すことは不可能です。今一度、叡智を結集し、国民全員で汗を流して日本を建て直そうという気持ちで、この日本を復活させたいと考えております。

(むらかみ・せいいちろう 財務副大臣)